見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

October 2016

vol.30

October						
S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

◆ 震災紀念堂

所在地：岐阜市若宮町

交　通：名鉄名古屋本線「名鉄岐阜」駅 北 約 1km

平成 28 年 10 月 28 日で濃尾地震から 125 年になります。岐阜県岐阜市若宮町には、震災の 2 年後の明治 26（1893）年に建てられ現在まで守り続けられてきた、濃尾地震による犠牲者を慰霊した『濃尾震災紀念堂』があります。今月はちょっと足を延ばして岐阜県へ…。

濃尾地震では、岐阜県で約 5,000 名の方が亡くなっています。濃尾地震の犠牲者を慰霊した慰霊碑や、復興を記念した記念碑は各地で作られていますが、濃尾震災紀念堂は、他にあまり例を見ない慰霊のための施設で、濃尾地震の 2 年後、3 回忌の前日の明治 26（1893）年 10 月 27 日に開堂しました。開堂にあたって中心になったのが、天野若圓（あまのじゃくえん）という人物です。

天野若圓（濃尾震災紀念堂～歴史を繋ぐひとびと～より）

若圓は、もともとは岐阜県稲葉郡岩戸村の真宗本願寺派善龍寺の生まれの僧侶でしたが、のちに第一回帝国議会で衆議院議員も務めた人物で、議員となったころには仏教の教理に基づいた愛国協会という政党を設立し、11 万人あまりの会員を率いていました。愛国協会設立から一年後に濃尾地震が発生し、若圓はその惨状を目の当たりにして、亡くなった方を慰霊することが生き残ったもののつとめであるとして、紀念堂の建立を決意するのです。若圓は紀念堂の建立にあたり、11 万人の協会会員の賛同を得て全国から資金の調達を行ったほか、当時の政財界の伊藤博文、犬養毅、大隈重信、岐阜県令の小崎利準などたくさんの方々の協力を受け、わずか 2 年での開堂にこぎつけています。

こうして建立された紀念堂でしたが、紀念堂は宗派に属さず檀家を持たない施設であったため、その維持にも大変な苦労が必要でした。戦後になって、若圓のあとを継ぎ紀念堂堂主となった天野眞徹（若圓の子・八重子と中川太氏の末子）は、紀念堂の維持のための資金を獲得するべく、父・中川氏とともに、三陽電機製作所（ネオン変圧器やバス蛍光灯内のインバータなどを作る会社）を起業しています。三陽電機は紀念堂の庫裏で創立され、その後も紀念堂の境内にあった建物が工場や社員寮として利用されていました。また、三陽電機の資金を捻出するために、紀念堂の本堂が担保となることもあったようです。今日、紀念堂が永らえているのは、中川氏と眞徹が興したこの事業があったからこそだと、西村道代氏（天野眞徹の子、現在の当主・天野賢敬の母）は 2014 年の歴史地震研究会の講演で述べられています。

その後、平成 17 年から平成 19 年にかけては、耐震性が不足し老朽化していた紀念堂の耐震補強工事が地元の建築士・横井守氏の

（裏面に続く）

濃尾震災紀念堂

◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

協力により行われました。紀念堂では、毎月 28 日の月命日、10 月 28 日の祥月命日に犠牲者を供養するための法要が行われてきましたが、この頃から、横井氏の働きかけもあり、それまで非公開であった月命日・祥月命日の法要を、公開で行うこととなりました。また、平成 22 年からは毎年の祥月命日に、「過去の災害を伝える」活動として、資料の展示や専門家による地震防災に関する講演などの記念行事が行われています。

現在、紀念堂の維持に中心的な役割を果たしている西村道代氏は、2014 年の歴史地震研究会の講演で紀念堂について、「本邦初の震災の慰霊堂として、又地域の一員として、歴史や思いを語り継ぐだけではなく、今を生きる私たちの防災意識の醸成をはじめ、未来に向けて何ができるか、何を発信していけるかを考えていきたい」旨、述べられています。震災から 120 年を迎えた前後からは、あらたに犠牲者を追悼し、未来へ向けての遺産継承のための試みがなされ、濃尾震災紀念堂保存機構が組織されています。その目的は、「濃尾震災の経験を後世に伝え、地震に対する知恵や情報を蓄積して、二度と大きな被害を受けることのないよう紀念堂を拠点として、広く文化教育活動をおこなう」ことにおかれています。

このようにして紀念堂は、その建立を発起した若圓の意志を、その子孫たちと、犠牲者を慰霊し震災を語り継ぐ使命を感じ取った地域の方々が受け継ぎ、近年では現在や未来に向けてのメッセージも模索しながら、120 年以上にわたって守り続けられているのです。

★ぎふ信長まつり

ぎふ信長まつりは、岐阜城を足がかりに天下統一を目指し、岐阜のまちづくりに貢献した織田信長をたたえるまつりで、毎年 10 月の第 1 土曜日・日曜日に開催される、岐阜市を代表するまつりのひとつです（平成 28 年は 10 月 1 日、2 日）。

信長公騎馬武者行列
岐阜市 HP より

まつりのメインイベントは岐阜市のメインストリートでのパレードで、信長や斎藤道三をはじめとする戦国武将や火縄銃鉄砲隊などで編成する「信長公騎馬武者行列」、自由なおどり文化を発信する「市民勝手カーニバル」などが岐阜市の中心市街地を行進します。

なお、来年は織田信長の岐阜入城と岐阜命名 450 年にあたり、まつりを盛り上げ機運を高めるため、今年の信長まつりには、東京ディズニーシーからディズニーの仲間たちもパレードに訪れます。（10 月 2 日 13:00 頃から）

10 月のあいちの花

平成 28 年 10 月のあいちの花はブルームマムです。通常、菊は蕾の状態で採花して出荷されますが、ブルームマムは通常より 2 週間程度長くハウスで咲かせてから採花して出荷されるもので、直径 13cm 以上にもなるドーム状の大輪をつけ、とても豪華です。

白、赤、黄色などのカラーバリエーションがあり、日持ちも抜群で菊本来の魅力を楽しめます。

●ブレイクタイム●

♪岐阜城パノラマ夜景

岐阜城からは 360 度の景色を見渡すことができ、岐阜市内の繁華街や、遠方には名古屋の街も見ることができます。岐阜城では期間限定で「岐阜城パノラマ夜景」として夜間営業を行っており、展望台から 360°の夜景を楽しむことができます。（平成 28 年秋は 9 月 3 日から 10 月 16 日の土・日・祝、午後 9 時 30 分まで）

岐阜城からの夜景（西･長良川方面）
岐阜市 HP より

また、この岐阜城パノラマ夜景の開催に合わせて、チェロや二胡の生演奏会が行われる「岐阜城ほっと一息・ミニコンサート」も開催されます。（平成 28 年 10 月は 15 日 (土)、午後 7 時半からと午後 8 時 20 分からの 2 回）

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター　平成 28 年 10 月）